論稿 | Article

ウルグアイ2014年大統領・国会議員選挙
―『拡大戦線の時代』到来か―

内田　みどり

はじめに

2015年3月1日，議会での就任演説で，タバレ・バスケス（Tabaré Vásquez）新大統領は，ウルグアイ建国の父ホセ・アルティガス（José Gervacio Artigas）の生涯と，啓蒙主義の申し子で先住民の権利を認めた彼の思想に言及した。「自由・平等・正義という3つの原則に基づき，アルティガスは人民の権利を熱心に擁護した」「アルティガス主義者にとって，人民の権利とその行使の根本的な柱となるのは統合，『偉大な祖国』だ」「ここにわれわれのアイデンティティ・原則・価値観の原点がある」と述べた。バスケス大統領は，自身が所属する政党連合である拡大戦線（Frente Amplio），そして自らを，建国の父の精神を受け継ぐものとして位置づけ，団結と人権の尊重，諸権利の実現を呼びかけた。

大統領の連続再選が禁じられているウルグアイで，選挙が定着した20世紀以降，2回大統領を務めるのは，彼のほかには第二の建国の父といわれ，現代のウルグアイの基礎を作った20世紀初頭のコロラド党大統領ホセ・バッジェ・イ・オルドーニェス（José Batlle y Ordoñez，在任1903年～1907年，1911年～1915年）と，1985年の民政移管の際に大統領に選ばれたフリオ・サンギネッティ（Julio María Sanguinetti，コロラド党所属。在任1985年～1990年，1995年～2000年）だけだ。しかし，バッジェの1期目は直接選挙ではなく，サンギネッティの1期目の選挙でも立候補を禁じら

れた政治家がいたため，自由で公正な選挙で大統領に2回選ばれたのはバスケスが初めてである。

そして，バスケスの再選は拡大戦線政権が3期目に入ることを意味する。1985年の民政移管以降，3期続けて政権を獲得した政党はない。20世紀初頭に男子普通選挙が成立して以来，1973年のクーデターまで，わずかな時期（1958年～1966年）を除いて一党優位を謳歌（おうか）していたコロラド党に代わり，拡大戦線の時代がやってきたのか。本稿では2014年のウルグアイ国政選挙を振り返り，拡大戦線の勝利の背景と，その勝利がウルグアイ政治にとってどのような意味を持つのかを考察する。

I　ムヒカ政権の軌跡

2014年の選挙の分析に入る前に，拡大戦線二期目のホセ・ムヒカ（José Mujica）政権の業績を振り返っておこう。ムヒカは官僚主義を批判し，労働者自主管理が夢だと語り，ウルグアイはニュージーランドのような国を目指すべきだとビジョンを語る（di Candia, César et al.［2009: 169, 204, 214］）。ムヒカの最大の功績は，サッカーファン以外にはなじみがなかったウルグアイを世界に知らしめたことだろう。2012年，リオ・デ・ジャネイロでの地球サミットで消費主義を批判した演説の動画は世界中で閲覧され，日本では絵本も出版された（くさば，中川［2014］）。政党人としてのムヒカは，野党を公営企業の役員に組み入れ，組閣では派閥均衡人事を行い，少数派にも配慮する慎重さを見せた（Fernández, Nelson［2010: 163-205］; *República*, 12 de enero de 2015）。自身の党である人民参加運動（Movimiento de Participación Popular: MPP）は国家の役割を重視し「左にかじを切る」のではないかと思われたが，経済政策の手綱を握ったのはマクロ経済の均衡と財政規律を重視する，副大統領のアストリ（Danílo Astori）だった。世論調査会社Factumを主宰する政治学者のボティネリ（Oscar A. Bottinelli）によれば[(1)]，ムヒカ自身は性別分業に関して保守的な考え方を持つと思われるにもかかわらず，彼の政権下では同性婚承認（法令19075号，ただし法令19119号で修正），12週までの人工中絶合法化（法令18987号），麻薬対策の切り札としてマリファナ栽培・販売を国家管理のもとに合法化（法令19172号）などの革新的な法案が成立した。また首都と内陸部の教育格差を解消する一助として，内陸部に技術大学（UTEC，http://www.utec.edu.uy/）を開校した。労働者自主管理を促進する発展基金（Fondes）や，寄付を主体とした基金を設立し，貧困層を対象に住民主体で地域・住宅を改善して社会参加を促すプラン・フントス（Plan Juntos），貧困層の妊婦と4歳までの幼児を対象とした「ウルグアイは君と育つ（Uruguay Crece Contigo）」も実現した。経済面では，近隣国への依存度を下げるため，米国やメキシコ，中国やEUの市場を開拓した（*Observador*, 21 de febrero de 2015）。選挙前の2013年の経済成長率は4.5%，消費者物価指数は7.9%に上昇したものの，都市失業率は6.8%ながらも労働市場は活気があり，職業の質も向上した（CEPAL［2014b］）。また，2005年には人口の18%が貧困層，4.1%が極貧層だったのが，2013年にはそれぞれ5.7%，0.9%に減少している（CEPAL［2014a: 17］）。

だが，フィンランド系パルプ工場の増産問題ではアルゼンチンとの関係悪化を招き，巨大鉄鉱石鉱脈の採掘をめぐる多国籍企業アラティリ（Aratirí Zamin Ferrous）との交渉も妥結していない。また「過度の富の集中はよくない」という信念のもと，悲願だった土地集中税や，後述するヘルマン事件判決との関係で成立させたかった失効

法解釈法[2]には，最高裁で違憲判決が出てしまった。統一試験を導入して，公務員の質の向上や労働の効率化を図った公務員改革も成功しなかった（*Latin American Regional Report, Brazil and Southern Cone*, March［2014: 9］）。OECDレポートでも指摘されているとおり，中等教育を中心とした教育問題や，治安問題も改善することはできなかった（OECD［2014: 32-34］）。選挙戦でこの点がどう評価されるかが問題となった。

Ⅱ　党内予備選から副大統領候補決定まで

1　過去最低の投票率となった党内予備選

ウルグアイではかつて「二重同時投票」（El doble voto simultáneo）と呼ばれる特殊な選挙・得票計算方法が採られていた。この制度では，各政党や政党連合［レマ（Lema）と呼ばれる］が名称を登録するとともに，政党の派閥・政党等の選挙協力グループ［スブレマ（Sublema）と呼ばれる］が名称や候補者リストの番号を登録し，派閥ごとに候補者リストを作る。大統領候補も派閥ごとに立て，最大得票政党の最大得票派閥の候補者を当選者とした。このため，①最多得票者が最大得票政党以外の政党から出た場合は大統領になれない，②党内で派閥間のイデオロギー距離が大きい場合は，当選した大統領が議会内で多数派を形成しがたい，という欠点があった。このため1996年に憲法を改正し（1997年発効），上下両院議員の候補者リストをスブレマ単位で登録する点は変わらないが，①国政選挙と地方選挙の日程を分離し，②党内予備選挙を導入して各党で大統領候補を1人に絞り，③大統領選挙で50％以上得票できた候補がいなかった場合は上位2候補で決選投票を行うこととした。

各党の大統領候補を決定する党内予備選は，2014年6月1日に行われた。党内予備選への投票は義務ではないが，有権者は1つの政党の予備選にしか参加できない。予備選には10の政党・政党グループが参加したが，うち2つは500票に達しなかったので，本選挙には進めなかった。予備選での投票率は低かった。党内予備選の投票率は1999年54％，2004年44％，2009年は45％と推移してきたが，2014年は37.1％（有権者数262万757人に対して総投票数は97万6655票）で，1999年の予備選導入以来，最低の投票率となった。とくに，首都では33.1％しか投票していない（内陸は39.8％）。予備選と同時に行われた各党の全国審議会選挙と県審議会選挙のみに投票した「一部白票」も9万1343票あった（*Busqueda*, 5 de Junio de 2014）。拡大戦線と国民党は投票率が低下し，逆にコロラド党は前回より上昇した（*Busqueda*, 5 de Junio de 2014）。

拡大戦線に所属している大統領候補者では，バスケスが全国で24万7556票（81.9％）を獲得し圧勝した。一方，対立候補に位置づけられるモレイラ（Constanza Moreira）上院議員は5万3915票（17.8％）にとどまった。コロラド党はペドロ・ボルダベリー上院議員（Pedro Bordaberry）が10万3142票で73.6％，アモリン・バッジェ上院議員（José Amorin Batlle）は3万6310票（25.9％）を獲得した。国民党では弱冠41歳（1973年生まれ）のルイス・アルベルト・ラカジェ・ポウ下院議員（Luis Alberto Lacalle Pou）が22万7407票（54.3％）を獲得し，ベテランのララニャガ上院議員（Jorge Larrañga）の18万9915票（45.4％）を上回る番狂わせとなった。

2　世代交代を重視した副大統領候補選び

国民党が「当選の可能性がある候補としては史上最も若い（前出政治学者のボティネリのコメント）

（*República*, 10 de junio de 2014）」41 歳のラカジェ・ポウを大統領候補に選出したことで，拡大戦線もコロラド党も副大統領候補の若返りを検討せざるを得なくなった。

拡大戦線は，民政移管の頃のリーダーと支持者がそのまま年老いてしまったといわれている。ムヒカ（1935 年生まれ），アストリ（1940 年生まれ），トポランスキ（Lucía Topolansky, 1944 年生まれ。ムヒカ夫人），バスケス（1940 年生まれ）はいずれも 70 歳代以上である。社会党首のダニエル・マルティネス（Daniel Martínez）や拡大戦線代表のモニカ・シャビエル（Monica Xavier，社会党），「新しい空間（Nuevo Espacio）」のラファエル・ミケリニ（Rafael Michelini）が 50 歳代である。同じ 50 歳代に，今回の予備選で「予想外」の躍進[3]を果たしたラウル・センディック（Raúl Fernando Sendic Rodríguez）元国営燃料・アルコール・セメント公社（ANCAP）総裁／元産業大臣がいる。彼の率いる派閥『拡大戦線の約束』（Compromiso-Frenteamplista）は，首都を含む 11 の県で得票数トップとなり，首都ではムヒカ派の人民参加運動（MPP）をしのぐ勢いを見せた（*República*, 2 de junio de 2014）。後述するジェンダー・クォータ制との関係で，副大統領にはアストリ派を中心にトポランスキを推す声もあったのだが，6 月 15 日の拡大戦線代議員総会（拡大戦線に属する政治グループの代表，地域基礎委員会の代理人の総会）でセンディックが選ばれ，26 日の党大会で副大統領候補として承認される運びとなった（*República*, 21 de junio de 2014）。

伝統政党の場合は，副大統領候補は予備選で敗北した対立派閥から選んで党内融和を図り，本選挙に臨むのが定石だ。コロラド党では，1960 年生まれのボルダベリーは前回の 2009 年選挙では「ニューリーダー」だったが，ライバルの国民党で若いラカジェ・ポウが台頭したのを前に，副大統領候補には自分より若い 40 歳前後の若い人をあてたいと考え，自分と同じ派閥（「行こうウルグアイ」Vamos Uruguay）のコウティニョ（Germán Coutinho）サルト県知事を選ぼうとした（*República*, 3 de junio de 2014）。これに対して，対立派閥の領袖（りょうしゅう）アモリン・バッジェ（José Amorín Batlle, 1954 年生まれ）が「自分の派閥『バッジェ派の提案』（Propuesta Batllista）から選ぶべきだ」と批判し（*República*, 11 de junio de 2014），結局コロラド党の副大統領候補にコウティニョが立つと正式に発表されたのは 7 月になってからであった。

一方，国民党の大統領候補ラカジェ・ポウも，党内融和の点からララニャガを副大統領候補に望んだ。しかしララニャガは 2009 年の予備選でラカジェ・ポウの父に敗れて副大統領候補に回った因縁があるうえ，両者の間にはマリファナ合法化（ララニャガは無効にしたいがラカジェ・ポウは修正のうえ維持），刑事処罰年齢引き下げ（ララニャガは反対，ラカジェ・ポウは賛成），犯罪と闘うための警察の軍事化（ララニャガの提案，ラカ

ジェ・ポウは異議）などの重要争点で隔たりがあった（*República*, 11 de junio de 2014）。それでも，ララニャガは6月12日には副大統領候補を引き受けることを了承した。

Ⅲ　選挙戦の経緯

1　国会議員選挙のしくみ

ウルグアイ議会は二院制で，拘束名簿式の比例代表制で議員が選出される。上院は全国を選挙区とし定数30，これに副大統領が議長として加わる。下院は19の県を選挙区とし，定数は99である。各県には有権者の人数に比例して議席が割り当てられるが[(4)]，憲法第88条により各県最低2議席が割り当てられる。首都には人口の約半数が住み，内陸との人口差はきわめて大きい。国会議員選挙はレマ，スブレマ，スブレマのなかのリストの3段階に分けて考える必要があり，候補者名簿のリストには決まった番号が付され，選挙裁判所に登録される。ただし，拡大戦線のようにそれ自体が政党連合の場合は，いくつかの政党が集まって会派を作り，さらにそうした会派が全体として拡大戦線を構成するという，あたかも「マトリョーシカ」（Fernández［2010: 233］）のごとき複雑な構造になっている（表1参照）。

派閥が選挙のアクターとして公認されているため，県レベルでの選挙連合の組み合わせは膨大なものとなる。今回，選挙裁判所に登録（9月26日締め切り）された候補者リストは首都で53枚にも及ぶ。全国では拡大戦線が220枚，国民党が108枚，コロラド党が46枚で，弱小政党の統一人民党（Unidad Popular，政党連合名はel Partido Asemblea popular で登録）ですら97枚のリストを登録している（*República*, 28 de septiembre de

表1　2014年国政選挙におけるレマ（政党 / 政党連合），スブレマ（派閥 / 選挙協力連合），リストの関係

レマ	スブレマ	中心となるリスト
コロラド党	行こうウルグアイ（Vamos Uruguay）	ボルダベリー派＝リスト10
	法のバッジェ主義者（Batllista del Ley）	アモリン・バッジェ派＝リスト15[(注)]
国民党	国民同盟（Alianza Nacional）	ホルヘ・ララニャガ派＝リスト2014
	皆で前進（Todos, hacia Adelante）	ラカジェ・ポウ派＝清新な風（Aire Fresco），リスト404 エレーラ派＝リスト71
拡大戦線（政党連合）	平等な発展のためにもっと拡大戦線を（Más Frente Amplio para más　Desarrollo con Igualitad）	ムヒカ派＝人民参加運動（MPP），リスト609 センディック派=拡大戦線の約束，リスト711
	拡大戦線の統一と多様性（Unidad y Pluralismo Frenteamplista）	社会党（バスケス，D. マルティネス，M. シャビエルらが所属）＝リスト90
	共産党	リスト1001
	リベル・セレグニ戦線（Frente Líber seregni）	アストリ派＝ウルグアイ会議（Asamblea Uruguay）リスト2121 ミケリニ派＝新しい空間（Nuevo Espacio）＝リスト99738
	大きな家　（Casa Grande）	C. モレイラ派＝リスト3311 M. ヘルマン派＝イール（Ir）＝リスト329

（出所）各政党，会派のウェブサイト，報道を参考に，筆者作成。
（注）　リベラ県だけは伝統的にリスト15は国民党のエレーラ派に関連するリストであり，全国レベルでのリスト15とは区別が必要である。

2014)。なお，投票は義務であり（憲法第77条第2項），正当な理由がない棄権には罰金が科せられる（法令13882号）。

2　選挙の争点

党内予備選の前に，バスケスが「すべての高齢者にタブレット端末を支給する」と述べて衆目を集めたが[5]（*Latin American Regional Report, Brazil and Southern Cone*, June［2014: 14］），世論調査によれば有権者が重視していたのは治安問題と教育問題である[6]。これは拡大戦線が成果を上げられなかった分野でもある。さらに，選挙戦後半ではグアンタナモの囚人受け入れ問題が争点として浮上した。

今回の選挙は「音楽ばかりで議論がない（Muchas música,menos debate）」と揶揄（やゆ）されたが，拡大戦線は今後5年の政策綱領の冒頭で，発展のカギとなるビジョンを明らかにしている。それによれば，自由・平等・正義が社会のカギとなる価値であり，発展とは人権が保障されることであって単なる物質生活の向上ではない。自然環境や世代的再生産の点で持続可能な発展であることも重要で，また経済発展において，その戦略やグランドデザインを描くものとして国家が主役を果たすといっている。経済だけでなく文化的な面でも地域統合を重視している点も特徴的だ（Frente Amplio［2014: 17-23］）。拡大戦線のスローガンは「まだかなえたい夢がある（Queda un sueño por cumplir）」「ウルグアイは立ち止まらない（Uruguay, no se detiene）」だ。「拡大戦線の政治の目的は，ウルグアイに住むすべての人々に平等に権利を保障すること」（Frente Amplio［2014: 13］）と，いっそうの社会的包摂を訴える。

一方，国民党の綱領は細部にわたって政策を述べるが，複数の分野で同じことを繰り返し述べていて「この国をこうしたい」という具体的な方向性がはっきりしない。ラカジェ・ポウは「清新な風（Aire Fresco）」というキャッチフレーズで若さをアピールした。また「ポジティブ（por la positiva）」というスローガンの具現化なのか，拡大戦線政権の政策「プラン・セイバル」[5]と連携できる教員支援プログラムを発展させると綱領で述べるなど，拡大戦線の政策でも引き継げるものは引き継ぐという姿勢である（Lacalle Pou/Larrañaga［2014］）。また，女性登用の目玉として，政権獲得の暁には，拡大政権の下で8年間経済財務省国債局に在籍し2011年からは国債局長を務めたアスセナ・アルベレチェ（Azcena Arbeleche，7月辞任）を経済財務相に抜てきすると宣言した（*Observador*, 18 de agosto de 2014）。

選挙資料（Frente Amplio［2014］，Lacalle Pou/Larrañaga［2014］）からみて，拡大戦線と国民党の方向性の違いが明らかなのは，労働政策と外交分野，軍政時代の人権侵害問題，国家の役割に関する部分である。まず労働政策では，国民党は賃金三者協議会について「われわれの制度の一部だが」「各セクターの競争力の程度，関係企業の異質性，生産性の水準，マクロ経済の基本データ，雇用とインフレの進展を考慮して，（賃金協議会に）部門別協定に基づいて明示された企業の脱退のメカニズムを導入する」とし，実質的な骨抜きを狙っている。外交については，国民党の綱領は「拡大戦線は多党間合意に基づく外交という伝統を破壊し，外交をイデオロギー化し，大使の政治任用を多用した」と批判し，ベネスエラやパレスチナ問題，キューバに対する政府の姿勢を批判，外交をプロの手に戻すことを主張する。地域統合に対するスタンスも方向性が異なる。拡大戦線は南米諸国連合（Union de Naciones Sudamericanas: UNASUR）への積極参加をうたっている。

軍政時代の人権侵害問題については，拡大戦線

は引き続き「記憶・正義・真実」を追求し，強制失踪被害者の捜索と容疑者の処罰，再発防止を約束しているが，国民党のラカジェ・ポウはこの問題に関心がない。むしろ「国内の過去の人権侵害問題には熱心なのに，抑圧的なキューバやベネスエラと友好関係にあるのはダブルスタンダードだ」と拡大戦線の政策を当てこすっている。

拡大戦線が国家の役割を重視していることは，政策綱領でも明らかである。公営企業は「生産・技術セクターにおいてカギとなる役割を果たす」としているし，農業分野でも，川・土壌・遺伝子など持続可能な発展のための社会的財とされるものは主権の規制下に置くとしている。一方，国民党は新しい概念として，貧困とは「ベーシックニーズを満たす資源がないこと」ではなく「自律的形態でそうした資源を得る能力を欠く」ことと定義し，直接給付はなくすのではなく，あくまでも手段の1つとするという。ではその他の手段とは何か。国民党のプログラムでは，さまざまな箇所で企業やNGOなど市民セクターの活用に言及している。国民党の政策綱領で重視されているのは，生産力強化のためのインフラ整備である。

教育分野については，国民党は「非常事態」と評し，支出に見合った成果が出ていないと批判する。そして，文部省を議会の統制下に置くことや，国家教育行政中央審議委員会のメンバー資格から公教育教師歴10年という要件を外すことを提案している。また，教員の質の向上や職務遂行条件を改善するために，奨学金などのさまざまな教員資質向上プランや，管理職権限の強化・管理職選抜の規則改正を提案している。英語教育の必修化や保育の充実も約束する。一方，拡大戦線は，教育予算をGDPの6％に増やすことや，3歳児までの教育を充実すること，教師や生徒も参加して多様な教育法を実験すること，英語とポルトガル語を教えることなどを提案している。拡大戦線が職業教育や職業と結びついた生涯学習を重視している点が目立つ程度で，両党の教育政策にそれほど大きな隔たりがあるとは思われず，どちらの政党も決め手を欠く。

治安問題では，長期的にみればウルグアイの治安が悪化している点において，拡大戦線は不利な立場にある。筆者は2014年8月に，議会の刑務所システム諮問委員会の委員（当時）である刑法学者アルバロ・ガルセ（Alvaro Galcé）にインタビューしたが，彼は①人口10万人あたりの殺人件数は1985年には4件だったのが現在は8件，つまりこの30年で2倍に増えている，②ウルグアイは人口あたりの収監者数が他のラテンアメリカ諸国に比べて多いが，これは検事・裁判官が執行猶予を好まず，実刑判決を出したがる傾向があるためである，③収監者の50％は財産犯である，④貧しい若者の犯罪の大半は麻薬がらみである，と指摘する。OECDの報告書も，ウルグアイで銃を使った強盗が増加していることを指摘している（OECD［2014: 39］）。主要な政治家が強盗被害・空き巣被害に遭う事件も頻発している（*Observador*, 12 de noviembre de 2014）。

コロラド党のボルダベリー大統領候補は厳罰主義を主張し，刑事処罰年齢を18歳から16歳に引き下げるか否かについての国民投票が国政選挙と同時に行われることになった[(7)]。国民党は刑事処罰年齢引き下げについてはラカジェ・ポウとララニャガの間で意見が分かれたため，両者はこの問題は政策に入れないことで合意した（*Latin American Regional Report, Brazil and Southern Cone*, August［2014:16］）。一方，拡大戦線は，いらだちや不寛容，日常的な暴力といった文化が問題であり，社会・労働・教育・刑務所・犯罪予防などの分野を総合して取り組むことを訴え，犯罪多発地

帯での社会プログラムを通じた目配りといった，地域ぐるみの意識変革を重視する。OECD の報告書は，逮捕された少年の 93% は中等教育を終えておらず，3 分の 1 は逮捕時に学校にも行かず仕事もしていなかった（OECD［2014: 47］）ことを考えると，少年犯罪はむしろ教育の問題ではないかと指摘している。

選挙戦終盤の争点は，グアンタナモの囚人受け入れの是非だった。2014 年 3 月にムヒカ大統領が受け入れを表明したが[8]，国民党のラカジェ・ポウは米国大使に受け入れ反対を表明（*República*, 26 de septiembre de 2014）し，「受け入れは憲法で定められた手続きを完遂していない」とムヒカを批判（*República*, 1 de octubre de 2014）した。このためムヒカは受け入れの決定を選挙後に延期する，と譲歩した（*Observador*, 9 de octubre de 2014）。民間世論調査会社 Cifra 社によれば，囚人受け入れはよくないと考える人は 2014 年 4 月の 50% から 9 月には 58% に増えている。また，だれが決定を下すべきかについては，40% が「議会」と答え，ムヒカ大統領と顧問（16%），ムヒカ大統領と閣僚（12%）よりずっと多い。同社の調査で，シリア難民の子供を受け入れることには 66% が賛成していたのとは対照的である。

3　名前の重み：ウルグアイ現代史と今回の選挙戦

今回の選挙では，ウルグアイの現代史を彩る重要な人物の子孫が重要な役割を演じた。ウルグアイには歴史上，大変な重みを持つ名前がある。「建国の父」アルティガスと，20 世紀初頭に民主主義と社会福祉の基礎を打ち立てたコロラド党のホセ・バッジェ・イ・オルドーニェス大統領は別格的存在だ。当時，このバッジェ大統領に反旗を翻したアパリシオ・サラビア（Aparicio Saravia）は国民党のシンボルである。社会に積極介入し国家に大きな役割を担わせ，労働者を個人として抱き込んでいくバッジェの政治姿勢・政治思想は，その後もバジスモ（Batllismo）と呼ばれ，ウルグアイ政治では大変重要な意味を持つ。おいのルイス・バッジェも大統領（在任 1947～1951）となり，叔父の路線を引き継いだ。ルイスの息子がホルヘ・バッジェ（Jorge Batlle）元大統領（在任 2000 年～2005 年）で，現在この派閥（リスト 15）を率いるアモリン・バッジェの母はルイスのいとこにあたる。

一方，エレーラ（Herrera）という名字は保守派の代名詞だ。ルイス・アルベルト・デ・エレーラ（1873 年～1959 年）は 1920 年代から約 40 年間，国民党の領袖であり続けた。このエレーラを母方の祖父にもつのがルイス・アルベルト・ラカジェ・エレーラ元大統領（在任 1990 年～1995 年，Luis Alberto Lacalle Herrera）で，ラカジェ・ポウの父である。新自由主義者で，在任中は民営化を推進し，2009 年の選挙でも「当選したら予算をチェーンソーでカットする」と発言して，在任当時の汚職問題と相まって労組の頂上団体 PIT-CNT に反対キャンペーンを打たれた人物である。

拡大戦線のラウル・センディック副大統領候補[9]は，1960～70 年代にウルグアイを震撼（しんかん）させた都市ゲリラ・ツパマロス（MLN-Tupamaros）のリーダー，ラウル・センディックの息子である。父や主だったメンバーは 1972 年頃にほぼ逮捕され，1973 年にクーデターが起きると，彼らはもし仲間が何かことを起こせば直ちに処刑される「人質」として，苛酷な扱いを受けた（ムヒカもその一人である）。

1973 年 6 月のクーデターは，議会内で多数派を形成できないコロラド党のファン・マリーア・ボルダベリー（Juan María Bordaberry）大統領（当時）と，政治関与を強めたい軍の思惑が一致した結果だった。1971 年の大統領選挙で得票数トップだったが，二重同時投票制度のため大統領にな

れなかった，国民党のウィルソン・フェレイラ（Wilson Ferreira）候補や，拡大戦線創設者の一人セルマル・ミケリニ（Zelmar Michelini）上院議員は亡命を余儀なくされ，海外から強い調子で軍事政権を非難した。ミケリニは1976年5月に滞在先のブエノスアイレスで暗殺された。ボルダベリー大統領は後に政治的殺人や憲法秩序の破壊などの罪で有罪判決を受けている。ペドロ・ボルダベリーはその息子だ。拡大戦線のラファエル・ミケリニ上院議員は，クーデターの片棒をかついだボルダベリー大統領によって亡命に追いやられたセルマル・ミケリニの息子である。息子夫妻が強制失踪したアルゼンチンの詩人ファン・ヘルマン（Juan Gelman）の孫マカレナ（Macarena）[10]が2000年に発見された事件は，ウルグアイで軍政期の人権侵害・強制失踪問題が広く知られるきっかけとなった。マカレナとヘルマンはまた，2011年2月24日に米州人権裁判所で失効法が米州人権条約に違反するという判決を勝ち取っている。

国民党の大統領候補ラカジェ・ポウは新自由主義者の父とは距離を置き，父の経済チームからは誰も選ばず（*Observador*, 18 de agosto de 2014），父もまた選挙キャンペーンに姿を見せなかった。しかし彼は「農業労働者8時間労働法は農業労働の実態に合わない」と口を滑らせてしまい（*República*, 27 de agosto de 2014），賃金三者協議会への姿勢と相まって労組から批判を浴びた。結局，ラカジェ・ポウ陣営は，ウェブサイトでコミュニケを出し，賃金三者協議会を促進する，農業労働8時間労働法も家事労働者法も廃止しない，と釈明する結果になった[11]

コロラド党のボルダベリー大統領候補にとっては，上述のように父が1973年クーデターに関わったため，彼の姓はラカジェにも増してハンディとなった。そのため彼は選挙キャンペーンには「ペドロ」というファーストネームを使い，それによって揶揄されていた。ボルダベリーは大統領選挙では第3位に甘んじることが確実なため，決選投票で国民党を支持することで，コロラド党と国民党が1985年の民政移管以降行っている共同統治に参画して，自党にポストを得ようとすると目された。しかし，9月になってボルダベリーが処罰年齢引き下げ問題で煮え切らない国民党を攻撃しはじめ（*República*, 9 de septiembre de 2014），さらにパラグアイ大使がジョギング中に強盗に襲われ治安問題が再燃すると（*País*, 22 de septiembre de 2014），拡大戦線のラファエル・ミケリニ上院議員が「国民党ラカジェ政権になったら内務大臣はコロラド党のボルダベリーだってみんな知っているのに，なぜ言わないの？」と，国民党とコロラド党が双方の対立構図の一方で内実は手を結んでいること指摘するツイートをした。ボルダベリーは慌てて否定したものの，このような発言が政治的に重要なタイミングで出てくるのは，両者にそれぞれの父親をめぐる因縁があるからだ。ボルダベリーは，ミケリニ暗殺事件に自分の父が関与していないとミケリニに言わせたいがために，こっそり会話を録音して自著で公開した過去を持つ（Bordaberry［2006］）。

Ⅳ　第一回投票から決選投票まで

1　第一回投票

世論調査はいずれも，拡大戦線と伝統政党ブロックの伯仲状態を示していた。決選投票になるに違いないが，決選投票で拡大戦線バスケスが勝利するかどうかはわからない，議会では拡大戦線が過半数を割るのではないか，コロラド党が票を伸ばし，その他の小政党も票を伸ばすのではないかと予測されていた（*República*, 23 de octubre de 2014）。

しかし，10 月 26 日の選挙では，大方の世論調査を裏切る結果が出た。投票総数は 237 万 2117 票で，白票 4 万 4688 票，無効票 3 万 3419 票，観察票 222 票であった。拡大戦線は 113 万 4187 票を，国民党は 73 万 2601 票，コロラド党は 30 万 5699 票を獲得した。独立党が 7 万 3379 票を獲得し，拡大戦線よりさらに左派に位置づけられる統一人民党も 2 万 6869 票を獲得した。非妥協的急進エコロジスト党（PERI: Partido Ecologista Radical Intransigente）は 1 万 7835 票，労働者党は 3218 票だった。国会での議席配分は第一回投票で決まる。国政選挙と同時に行われた，刑事処罰年齢引き下げに関する国民投票は，投票総数 237 万 2117 票のうち賛成は 110 万 283 票で絶対多数に届かず，改憲はできなかった（選挙裁判所記録 9414 号）。

2　決選投票

ウルグアイ選挙裁判所が発表した結果によれば，拡大戦線は 14 の県で第一党となった。だが，コロラド党と国民党の得票の合計より拡大戦線の票が上回った県は，モンテビデオ・カネロネス・パイサンドゥ・サルトの 4 県のみである。これは，二大伝統政党のブロック形成がうまくいけば，国民党ラカジェ・ポウ大統領候補に逆転のチャンスがあることを意味する。しかし，コロラド党は副大統領候補をめぐる遺恨が党内にくすぶっているうえに，党の正式決定以前にボルダベリーが早々に個人的に候補者ラカジェ・ポウ支持を打ち出したことで，党内から批判・異論が噴出した（*Observador*, 1 de noviembre de 2014）。伝統あるバッジェ派を率いるアモリン・バッジェは「バジスモは同党内のボルダベリーの派閥『行こうウルグアイ』と同じではない」と距離を置き「（自分は国民党に入れるが）みんなは好きなようにすればよい」と突き放した（*Observador*, 31 de octubre de 2014）。

一方，国民党は拡大戦線を「左翼急進的ポピュリズム」（*Observador*, 30 de octubre de 2014），「拡大戦線は増税をする」（*Observador*, 11 de noviembre de 2014）と攻撃したが，11 月 30 日の決選投票では拡大戦線バスケスが 122 万 6105 票，国民党ラカジェ・ポウが 93 万 9074 票で（投票総数 232 万 1240 票，白票 6 万 2156 票，無効票 5 万 9716 票，観察票 3 万 4189 票），バスケスが投票総数の 52% を獲得して勝利した。

V　選挙結果をどうみるべきか

1　拡大戦線はなぜ支持されたのか

拡大戦線を支持したのはどのような有権者で，支持の理由は何だろうか。ここでは議会の議席配分に関わる第一回投票を取り上げる。拡大戦線バスケスの選挙ブレーンの一員でもある社会学者レアル（Gustavo Leal）は，拡大戦線は 18～30 歳の若年層で全国平均 58.5％の支持を得たという。これに対し国民党は 27.2％，コロラド党は 10.2% にとどまる。若年層の支持は大都市圏でいっそう顕著（モンテビデオ県では 18～ 24 歳の 71.5％）だが，全体としても，国民党が勝利した県を含めてすべての県で拡大戦線は若年層を最もひきつけたという（*Observador*, 11 de noviembre de 2014）。

地域的にみると，セロ・ラルゴ県やフロリダ県といった，伝統的に国民党の地盤で国民党の県知事がいる県でも拡大戦線が勝っている（*Observador*, 5 de noviembre de 2014）。首都では拡大戦線は前回よりやや得票率が下がって 53.5% だったが，オブセルバドール紙の調査チームによれば，ラ・テハ（バスケスの生地）やセロ地区のような庶民的な地区では 65% の得票だが，マルビンなどの中流層以上が住む地区では互角，ポシートスやカ

ラスコのような上流地区では国民党が勝っている（*Observador*, 10 de noviembre de 2014）。しかし，かつて首都でコロラド党の地盤だった地区が，アルゼンチン経済危機に端を発する2002年の経済危機で大打撃を受け，今や60%以上が拡大戦線に投票するようになったことも指摘されている（*Observador*, 21 de noviembre de 2014）。

以上のような投票傾向は何を意味するのか。政治学者ガルセは，拡大戦線の勝因は選挙公約ではなく，過去の実績に対する業績投票だと分析する（*Observador*, 5 de noviembre de 2014）。政治学者ケイロロ（Rosario Queirolo）も，今回の選挙は階級所属より政府の経済政策・分配政策への評価が決め手になったとみている（*Observador*, 13 de diciembre de 2014）。拡大戦線が政権を担うようになった2005年以来，貧困は削減され失業率も低下している。ムヒカ肝いりの住民参加型居住区改善政策であるプラン・フントスは，家賃が高く公共住宅の供給が乏しいウルグアイの住宅事情（Filgueira y Hernández [2015: 217]）を改善する試みであると評価できるし，首都と内陸の格差解消にも取り組んだ。さらに，ガルセは戦術面の失敗として，国民党が表面上は拡大戦線政権を批判しながらも，選挙キャンペーンでは政策の継続性を強調したことによって，与党は失策をそれほど気にしなくて済むようになったことを挙げている（*Observador*, 5 de noviembre de 2014）。

2　新議会の構成

ここでは，上下両院の議席配分を，国会における（1）政党間の勢力配置（2）政党内派閥間の勢力配置（3）クォータ制の成果の観点から考察する（表2，表3参照）。

まず政党間でみると，拡大戦線は上院で1議席失ったものの，辛うじて両院で過半数を維持した。国民党は上院で1，下院で2議席増やした。コロラド党は上院で1，下院で4議席を失い，独立党が上院で1議席を獲得，下院では2議席増やして3議席を獲得した。また，統一人民党が初めて下院で議席を獲得した。

しかし，派閥政治の国であるウルグアイでは，イデオロギースケール上の勢力図を考えるには政党内派閥間の勢力配置が重要である。拡大戦線のなかでは，ムヒカ派の人民参加運動（MPP）が上院で6，下院で24議席を獲得し，3期連続で拡大戦線内の最大派閥となった。副大統領であるセンディックの会派も上院で2，下院で6議席を獲得した。この2つは国家の役割を重視する。逆に，財政規律を重視するアストリ派は上院で5から3に議席を減らすなど，勢力は半減した。国民党では，前回より2万票増えた「国民同盟」（ララニャガ派）が上院で4，下院で16（前回は11）議席を獲得，逆に「皆で前進」（ラカジェ・ポウ派）は下院で19から16議席に減った。（*Observador*, 3 de noviembre de 2014）。2015年からの議会は全体として左傾化しているといえる。

さて，クォータ制で女性議員は増えたのか。国連開発計画（UNDP）によればウルグアイの国会で女性が占める割合は12.3%（2012年）にすぎない（UNDP [2013]）。そこで，法令18476号（2009年）で経過措置として2014年と2015年の選挙では，国会議員・地方議員の候補者リストの上位から3人ごとに1人は異なる性別の候補を立てることを定めた。その結果，女性議員は上院では前回の4人から9人に増えたものの，下院では15人から16人に増えただけだった。これは，この方式ではリストの3番目に女性を置くケースが多く，下院では定数が多いモンテビデオ県とカネロネス県くらいしか効果がないからである（*Observador*, 28 de enero de 2015, 下院の県別定数については図1参照）。

表２　上院 30 議席の配分

レマ：拡大戦線：15 （前回より１議席減）	レマ：国民党：10 （前回より１議席増）	レマ：コロラド党：4 （前回より１議席減）	レマ：独立党：1 （前回より１議席増）
スブレマ：平等な発展のためにもっと拡大戦線を（Mas Frente Amplio para mas Desarrollo con Igualitad） リスト　ムヒカ／*トポランスキ*／ボノミ　6 リスト　センディック／L・デ・レオン　2 *M・シモイス* リスト　カランブラ／*カスティリョ*／*ヌニィス*　1	スブレマ：皆で前進（Todos hacia adelante）　6 リスト　ラカジェ・ポウ／エンシソ／*ビアンチ*	スブレマ：行こうウルグアイ（Vamos Uruguay）　3 リスト　ボルダベリー／コウトゥニョ *モンタネール*	スブレマ：後戻りせず変わろう（Cambiar sin volver atás）　1 リスト　ミエレス／ガト／*ヴァラント*
スブレマ：セレグニ戦線（FLS）　3 リスト　アストリ／ミケリニ／*パイセ*	スブレマ：国民同盟（Alianza Nacional）　4 リスト　ララニャガ／モレイラ／ *アロンソ*	スブレマ：法のバッジェ派（Batllista del Ley）　1 リスト　アモリン・バッジェ／ ビエラ／*オラノ*	
スブレマ：拡大戦線の統一と多元性　2 リスト　マルティネス／*シャビエル*／*トゥルネ*			
スブレマ：大きな家（Casa Grande）　1 リスト　*モレイラ*／*ベラメンディ*／アンサロネ			

（出所）選挙裁判所（http://www.corteelectoral.gub.uy/），2015 年 3 月 28 日。
（注 1）リストは議席を得られたもののみ記載されている。リストの名前は左から順に名簿順位 1 位，2 位，3 位というように並んでいる。イタリック文字は女性候補。
議員が辞職すると，あらかじめ決められている補欠（suplente）が代わりを務める。
（注 2）センディックはこのリストの 1 位だが，副大統領に選出されたため，補欠が上院議員となり，本人は規定により上院議長に就任した。

表３　下院の議席配分

政党	議席
拡大戦線	50（50）
国民党	32（30）
コロラド党	13（17）
独立党	3（ 1）
統一人民党	1（ 0）

（出所）表 2 に同じ。
（注）（　）内の数字は前回 2009 年に獲得した議席数。

Ⅵ　今後の展望

決選投票が近づいた 2014 年 11 月頃から，現地報道では「拡大戦線は新しいバジスモ（20 世紀初頭に国家が社会に積極的に介入することをよしとしたバッジェ大統領に始まる政治ビジョンで，ウルグアイではきわめて重要な意味を持つ）なのか？」という論調が目立つようになった。21 世紀のラテンアメリカでは，左派政権が再選される例は珍しくないし，歴史学者のラグロタ（Miguel Lagrota）のように，拡大戦線（とくにムヒカ）は政治を法に優先させるところがあるので，（コロラド党のアモリン・バッジェが伝統的バッジェ派のスブレマを「法のバッジェ主義者」と名づけたことからもわかるように，バジスモは法を尊重するという点で）バジスモとは違う（*República*, 24 de noviembre de 2014）という指摘があるものの，国家を重視する姿勢，公営企業に積極的役割を担わせる姿勢は共通する。少なくとも「バッジェ的なるもの」を支持してきた貧しい人々が，拡大戦線にくら替えしたことは間違いない。

図 1　各県の下院議席定数

（出所）表 2 に同じ（http://www.corteelectoral.gub.uy/），2015 年 3 月 27 日。

インフラの整備・教育予算・介護システム（SNC）など，コストのかかる課題が山積する第2期バスケス政権も，経済政策の要はアストリ派が握る[12]。バスケスは，ムヒカ肝いりの中小企業自主管理基金（Fondes）や住民参加の居住区改善政策（プラン・フントス）の内容を変更しようとしており（*Observador*, 18 de enero de 2015; 03 de marzo de 2015），早くもムヒカ派（人民参加運動［MPP］）との間で対立の火種がくすぶっている。しかし拡大戦線は，異論を抱え込むことでその名の通り幅広く支持を獲得してきたのも事実である。人民参加運動（MPP）とバスケスの橋渡し役として期待されているのが，「拡大戦線の約束」のセンディック副大統領だ（*Observador*, 1 de diciembre de 2014）。

新大統領は就任早々，2015年5月10日の地方選挙（県知事・県議会，市長・市議会選挙）の洗礼を浴びた。国民党とコロラド党は首都で選挙協定を結び，共通の政策綱領で1989年拡大戦線に奪われている県政の奪還をねらったが，候補者選びの際のごたごたが足をひっぱった。結局，トポランスキ，マルティネス，それに30歳の女性医師を擁立した[13]拡大戦線が勝利し，社会党のマルティネスが首都の新県知事に選ばれた。国民党は12の県で勝利し，そのうちララニャガ派が8県を占めて，内陸へのMPPの浸透を食い止めた。拡大戦線は6県で勝利したが，MPPは勝負を賭けたサラビアゆかりのセロ・ラルゴ県で国民党に敗れるなど，振るわなかった。コロラド党はサルト県を拡大戦線に奪われ，リベラ県のみとなった。県知事の数で国民党はまさっているが，人口比でいうと拡大戦線が統治する地域には国民の67%が住んでいるのに対し，国民党のそれは30%にとどまる［*Busqueda*, 14 de mayo, 2015:11, *Observador*, 16 de mayo］。

地方選挙は与野党ともに党内リーダーシップをめぐる対立をあぶりだしたが，リーダーシップの問題はコロラド党ではいっそう深刻で，同党はもはや瓦解寸前である。野党のオウンゴールが続く限り（そしてMPPとバスケスの対立がこれ以上深刻にならない限り），「拡大戦線の時代」は終わらないのではないか。

注

(1) Oscar A. Bottinelli – diálogo con Camilo Delelli, “Continuidades y diferencias entre la Administración Mujica y la Administración Vázquez bis”, Factum社ウェブページ（http://www.factum.edu.uy）2015年3月18日。

(2) 失効法は，軍政期人権侵害の裁判について行政府が適用の是非を判断するというもの。失効法解釈法は，失効法成立から失効法解釈法が成立するまでの期間を時効に参入しないと定めた。

(3) 共和国大学の政治学者アドルフォ・ガルセ（Adolfo Garcé）の指摘（*República*, 10 de junio de 2014）。

(4) 選挙補足法（Ley complementaria de la eleccion）第3条，第4条。有権者数の算定は県ごとに前回選挙の有効投票数に前回選挙から計算期間までに各県に初めて有権者登録された人数を合算し，各県の有権者数を合算して全国有権者数を出し，これを議席数で割って1議席に相当する得票数を決め，この数で各県の有権者人口を割って，議席を割り当てる。2014年選挙の各県の定数は通達9292号で周知された。選挙裁判所ウェブサイト（http://www.corteelectoral.gub.uy/），2015年3月27日。

(5) バスケスは第1期政権のときに全生徒に学習用のパソコンを配布する「プラン・セイバル」を実施した。

(6) CIFRA社（http://www.cifra.com.uy ）が2013年12月5日と2014年2月26日に発表した世論調査を参照。

(7) ウルグアイは直接民主主義の制度が定着し，広く用いられていることでも知られている。共和国憲法第79条は「税に関する法令を除いて，法令成立1年以内に有権者の25%の申し立てによって，国

民投票を要求できる」としている。一方，憲法改正手続きについて定めた憲法第331条A項は「有権者の10%が署名する発議によって両院議長宛に提出された（改正の）素案は，直近の選挙の際に人民の意思決定（国民投票）に付さねばならない」としている。今回の国民投票は憲法第331条A項の改憲発議である。

(8) 米国はチリやブラジルにも打診したが受け入れを拒否されている。ムヒカは「人道的見地から」グアンタナモの元囚人を受け入れると言っているが，見返りとして第1期バスケス政権から続いているフィリップモリス社との反タバコ法をめぐる紛争で米国の支持を期待しているのではないかといわれている（*Latin American Regional Report, Brazil and Southern Cone*, May［2014: 2］）

(9) 共和国大学の歴史学者デマシ（Calros Demasi）によれば「あのセンディックの息子が大統領になったら面白い，と思わせる人物であるとともに，大学卒で企業経営経験があるヤッピー」という側面を持つ。2014年9月8日に筆者インタビュー。

(10) 今回，マカレナは拡大戦線から下院議員に立候補し，当選した。

(11)「ラカジェ・ポウを大統領に」ウェブサイト http://www.lacallepou.uy/　2014年10月24日。

(12) 閣僚名簿はウルグアイ大統領府のウェブサイトで確認できる。ウルグアイ大統領府ウェブサイト（http://www.presidencia.gub.uy/），2015年3月29日。

(13) 知事候補は3人まで立てられ，最大得票政党の最大得票者が当選となる。

参考文献

＜日本語文献＞

くさばよしみ（画），中川学（文）［2014］『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』汐文社。

＜外国語文献＞

Bordaberry, Pedro［2006］*Que me desmientan*, Linardi y Risso.

CEPAL［2014a］*Social Panolama of Latin America 2014*.（http://www.cepal.org/）

CEPAL［2014b］Preliminary Overview of Economies of the Latin America and the Carribean 2014.（http://www.cepal.org/）

di Candia, César et al.［2009］*Mujica en Busqueda:Trece año en 21 reportajes*, Editorial Fin de Siglo.

Fernández, Nelson［2010］*Quién es quién en el gobierno de Mujica*, Editorial Fin de Siglo.

Frente Amplio［2014］*Bases Prográmaticas: tercer gobierno nacional del Frente Amplio 2015～2020*.（http://www.frenteamplio.org.uy/）

Lacalle Pou / Larrañaga［2014］*Programa de Gobierno 2015/2020*,（http://www.lacallepou.uy/）.

Latin American Regional Report Brazil and Southern Cone, March 2014.

Latin American Regional Report, Brazil and Southern Cone, May 2014.

Latin American Regional Report Brazil and Southern Cone, August 2014.

Marsiglia, Magdalena and María José Doyenart［2015］"Residential Trajectories of the Older Irregular Settlements in the City of Montevideo" in Peter M.Ward et al.

Housing Policy in Latin American Cities: A New Generation of Strategies and Approaches for 2016 UN-Habitat III, Routledge, pp.214-236.

OECD［2014］*Multi-dimensional review of Uruguay Vol.1 Initial Assessment*, OECD/UN ECLAC（http://www.oecd.org/dev/）2015年1月26日.

UNDP［2013］*Human Development Report 2013*.

謝辞　筆者は2014年8月25日～9月9日，科学研究費補助金を得てモンテビデオで現地調査を行った。現地調査ならびにその前後において，駐ウルグアイ日本大使館専門調査員・中沢知史氏から多大なる情報提供・ご援助を賜った。御礼を申し上げる。

（うちだ・みどり／和歌山大学教授）